

6月定例議会の主な動き

財政

**県税収入2310億円
県債残高が減少に転じる**

2006年度決算の県税収入は、昨年度から172億円増の2310億円となる見通しです。企業業績の好調さを背景に法人事業税等が2割以上の増加となったことが主な理由です。

また、これまで増加の一途を辿っていた県債残高が、20億円ではありますが減少に転じました。

群馬県の財政健全度は全国トップクラスですが、税収の回復により、一層の健全化が期待されます。

医療

ドクターヘリ導入

医療機器を搭載し救命救急専門の医師を乗せて救急現場に向かうヘリコプター「ドクターヘリ」が来年度に導入されます。

救急現場から病院までの移動時間が大幅に短縮されることが期待されますが、医師の確保等の課題も残されています。

議会改革

**県議会初
議員同士で論戦
政務調査費問題を巡り**

二案の主張ぶつかり合う

6月12日の一般質問で、後藤かつみとともに「全額領収書添付」案を提出した岩上憲司氏と阿部知代氏から、「1万円以上に添付」案を提出した議会運営委員会（中島篤氏が答弁）に対して、「なぜ、1万円以上という不透明な部分を残すのか」という視点から追及をしました。

これに対し、中島氏は「事務量が増える」「全国的にも良い方」と主張し、議論は平行線を辿りました。

四党派が異例の反対討論

しかし、論戦むなしく数の力で押し切られるかたちで「1万円以上」案が可決されました。

これに対し、21日の最終日において、スクラム群馬、爽風、民主改革クラブ、日本共産党の四党派から、決定に不服として反対討論が行われました。

福祉

**特養増設700床の
内訳示される**

「弱者を守る」政策の目玉として、特別養護老人ホームを今年度700床整備する方針となっていますが、市町毎の整備数の内訳が明らかになりました。

緊急の入居待機者数と要支援・要介護認定者数を基に各市に振り分けるといった方法となっています。

700床増の市町別内訳

前橋	150床
高崎	80床
桐生	70床
伊勢崎	100床
太田	80床
沼田	50床
藤岡	20床
みどり	30床
安中	30床
渋川	70床
下仁田	20床
合計	700床

